

# わいるどらいふ

No.5

NPO法人

宮崎野生動物研究会

2006年12月1日

## 野生研のあしあと

8/10

2006年度アカウミガメ調査終了。

8/17

台風10号が宮崎に接近。海は大荒れとなり、また海岸が削られました。

8/19

賛助会員42名が参加して、子ガメの孵化見学会を石崎浜で開催しました。

9/9

北諸県農林振興局と都城市高城支所から野生サルの被害対策の相談がありました。

9/20

江平小学校4年生の皆さんがウミガメの勉強会をしました。 [竹下]

9/20

宮崎西小学校4年生の皆さんに「ウミガメの生態と保護」の話をしました。 [竹下]

10/5

2006年ウミガメ調査結果報告会を実施。

10/25

大宮小学校4年生に「ウミガメの話」をしました。 [竹下]

11/3

宮崎大学文化祭で「ウミガメ展」が開催されました。

11/9

宮崎商業高校2年生の2クラスにアカウミガメの話をしました。 [串間]

11/10

宮崎商業高校2年生の2クラスにアカウミガメとコアジサシの話をしました。 [末吉]

11/15

広瀬小学校4年生に「ウミガメの話」をしました。 [小豆野]

平成18年度宮崎県野生動植物生息調査：RDBL改定検討委員会を市民プラザで開催。

11/18～20

第17回日本ウミガメ会議に参加しました。 [竹下、中島、児玉、長谷、福島]

## 宮崎の動物

### 『イノシシ』



イノシシは偶蹄目イノシシ科に属します。ご存じのように、ブタはこのイノシシから家畜化されたもので、中国で発見された1万年くらい前の骨が一番古いということです。

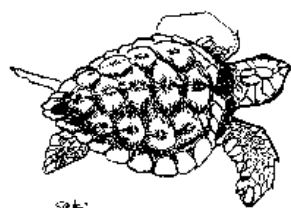
全国、いや宮崎でもイノシシが実際何頭住んでいるのか、まったく見当もつかない、というほど研究が遅れています。社会は非常に多様です。オスは基本的に単独生活ですが、メスは母子グループやメスグループを作っているということです。

食性は典型的な雑食性で、植物の根、昆虫、ミミズ、蛇などの小動物など、これも実にバラエティに富んでいます。この融通むげさが、この種を全国にはびこらせている原因かも知れません。

イノシシの生息痕跡として、糞、掘り跡、体こすり木、ヌタバ、カリマ(寝床跡)などがあります。これらを見つけたら回りで剛毛を探してみてください。

岩本俊孝

## 2006年アカウミガメ調査結果詳細報告



細がまとまりましたので報告します。

調査をされた皆さんが感じていた通り、ほとんどの海岸で上陸回数・産卵回数とも大きく減少しました。下記の表を見て分かるように、7ヶ所の海岸で上陸回数の前年比が50%以下となり、その中でも33%以下になった海岸は、堀之内、住吉、一ツ葉、こどものくにでした。特にこどもの

くにでは、15%という信じられない結果となりました。

各海岸の合計で見ると、上陸回数は前年よりも588回減少して545回、産卵回数は454回減少して309回という結果になり、いずれも前年の半分以上となりました。前号でも述べましたが、この状況は全国的なもので、本県以外のアカウミガメの主要な産卵地の屋久島、四国でも上陸産卵数が非常に少なくなっており、今年のウミガメ会議でも各地から同じような事例が報告されました。

	上陸回数	産卵回数	産卵 移植なし	産卵 移植あり	移植 卵数	戻り 回数	標識数	漂着 死体	前年 上陸数	上陸 増減	前年比
堀之内	56	42	23	19	2089	14	4	1	171	-115	33%
新富	95	66	38	28	3263	29	0	0	227	-132	42%
大炊田	68	37	15	22	2571	31	1	1	119	-51	57%
明神山	154	70	14	56	6466	84	9	1	135	19	114%
住吉	27	15	3	12	1343	12	4	0	101	-74	27%
一ツ葉	11	9	6	3	315	2	0	1	34	-23	32%
松崎	72	42	33	9	972	30	1	1	149	-77	48%
運動公園	39	9	6	3	260	30	3	1	88	-49	44%
こどものくに	15	13	7	6	651	2	1	0	98	-83	15%
青島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
白浜	0	0	0	0	0	0	0	0	11	-11	
空港北浜	8	6	6	0	0	2	0	0	0	8	
全体	545	309	151	158	17930	236	23	6	1133	-588	48%

この表の中には野生研の活動として評価できる数字もあります。それは、産卵回数309回のうち、半分以上の158回を移植していることです。

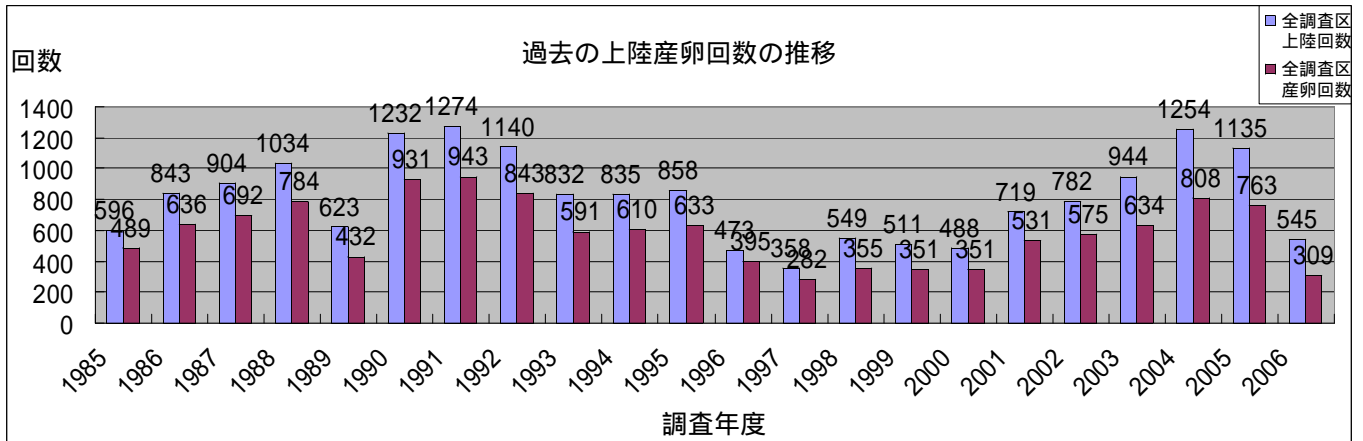
アカウミガメが自分の力で安全な砂浜にたどり着き、産卵を行い、卵も移植されることなく無事孵化することが望ましいとは思いますが、しかし、砂浜の浸食が激しく、安全に産卵・孵化できる場所が激減し、また今年のように全国的に産

卵回数が減少してしまった状況では、積極的な保護の手だてが必要となるでしょう。実際に移植した卵は17930個にもなりました。すべての移植卵の孵化調査は実施していないので、具体的な数字を示すことはできませんが、かなりの数の子ガメが孵化し、海に帰ったことは予想されます。来年以降も今と同じ状況が続けば、積極的な移植を今年同様行う必要があるでしょう。

ところで、下のグラフで分かるように、宮崎県での上陸・産卵回数には増減があります。1997年は今年より上陸・産卵回数ともに下回っています。その後、徐々に回復し2004年の上陸回数は、1991年の値に近づきましたが、産卵回数はそれほど回復しませんでした。なお、2004年をピー

クとして、その後は減少傾向にありました。

この上陸・産卵回数の増減はアカウミガメの回遊や繁殖、産卵の周期に関係があるのかもしれませんが、未だ明らかにされていない部分です。いずれにせよ、今年が減少の底であったことを祈るばかりです。 児玉純一・末吉豊文



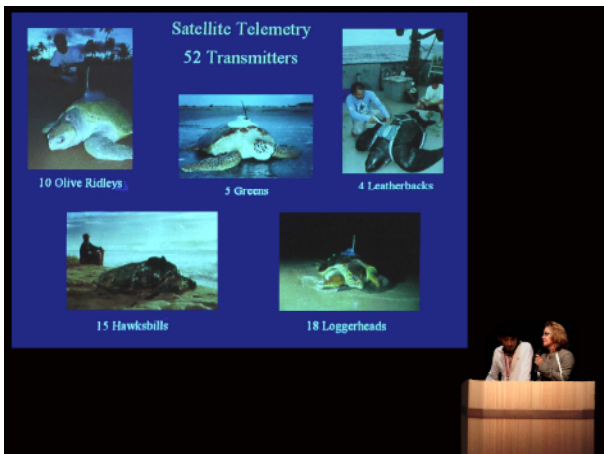
## 日本ウミガメ会議 参加報告

11月18日から20日まで、三重県熊野市、紀宝町に於いて日本ウミガメ会議「第17回熊野・七里御浜会議」が開催され、竹下、児玉、中島、長谷氏とともに参加しました。会議には海外からの20名を含む約300名の参加があり、公開シンポジウムと26題の口演発表、23題のポスター発表（野生研からの発表は「GPSによるアカウミガメ上陸産卵地測定法」「個体測定より見たアカウミガメ上陸個体の変遷」の2題）がありました。今回は、Neca Marcovaldi 女史による「ブラジルのウミガメとその保護」という演題の特別講演があ

りました。また、メキシコにおける調査報告も数件ありました。世界各地で実施されている衛星による行動追跡調査や、様々な保護活動が展開されている事例を聞き、ウミガメの保護には地球規模での取組みが大切であることをあらためて感じるとともに、私たちが行っている地道ながら貴重な基礎調査と保護活動も、その一役を担っていることを実感したところです。宮崎県ではあまり耳にしません、混獲がウミガメの死亡原因の大きな要因となっていることから、その事例の報告や、改善のための研究報告がありました。今後研究が進み、ウミガメの生態が徐々に解明されてくると思います。

上陸調査結果の報告によると、今年のアカウミガメの全国の上陸回数は5167回（うち産卵2833回）でした。全国的に減少ということですが、原因は解明されていません。来年は上陸数が回復することを願っています。来年度の会議は種子島で開催される予定です。

福島英樹



特別講演「ブラジルのウミガメとその保護」



## 会員ペンリレー 事務局運営を通して 感じるどころ

宮崎野生動物研究会事務局

児玉純一

宮崎野生動物研究会は、ウミガメだけの研究会ではありません。これまでの野生研の年間活動の大部分は、アカウミガメの調査保護活動に注がれてきました。アカウミガメは県の天然記念物に指定されており、県や市町村の調査保護委託事業となっていたからでしょう。

しかし、会員の中にはウミガメ以外に、ほ乳類や鳥類、昆虫など、その他の野生動物の事情にくわしい人たちがいます。また、その人たちの活動を応援しようという賛助会員の方もおられます。

NPO法人としての宮崎野生研の目的は、県内におけるすべての野生動物の調査保護活動にあるのです。今後は絶滅の危機にあるアカウミガメとその産卵地を守る活動を続けながら、その他の野生動物調査保護の活動に目を向けることも必要でしょう。

NPO法人といっても会員はみなボランティアで頑張っているわけですが、会員同士の交流や情報交換を通して野生研のパワーをもっと発揮してみまじょうか。事務局を運営しての感想でした。

次号は、越本知大さんにリレーします。

### 新会員のご紹介

賛助会員：山田正子・竹内真弓・岩沼 優  
奥 隆充・田中修一（敬称略）

賛助会員の声

## 子ガメの孵化見学会に参加して

ボーイスカウト15団 カブスカウト  
安藤圭祐（宮崎市立江平小学校）

8月19日子ガメの放流会がありました。ぼくは、この日が一番たのしみなイベントです。ぼくは子ガメを見たこともなかったですが、手にのせてもらったら、かわいくてかわいくてたまりませんでした。飼ってみたいくらいでした。



子ガメの孵化見学会の様子

そのカメをはなす前にお話をききました。この子ガメは一人でアメリカまで泳いで行くのだそうです。そして大きくなってまたここに帰って来るのだと聞いたのでおどろきました。ぼくのはなした子ガメが元気で大きくなってかならず帰ってきてねとそっとはなしました。そして卵をうんでくれたらいいなと思いました。

さいきんは地球おんだんかのために海岸は悪くなりカメの上陸がすくなくなっているそうです。みんなで、すみやすい地球にしないといけないと思います。ぼくもきょうりよくして海岸をよごさないようにします。

### 編集後記

今夏のアカウミガメの上陸・産卵回数を見て唖然！ 来夏の回復を祈るばかりです。（末吉）

宮崎野生動物研究会通信「わいるどらいふ」 No.5 2006年12月1日発行

特定非営利活動法人

宮崎野生動物研究会 代表 竹下 完

880-0825 宮崎市東大宮3丁目9-11

Tel 0985-25-7585 Fax 0985-25-7585

Email: kan-take@miyazaki-catv.ne.jp http://www.m-yaseiken.org

1ページタイトルイラストはムササビ、関希美作

リスアカネ